

2020 年度実施概要

学校名

糸満市立高嶺中学校

採択活動名

海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 報得川と南山の発展の関係を見つけよう	1 年	海人科
2. 海から川をさかのぼって積み荷を運ぶための工夫を考えよう	1 年	海人科
3. 大度海岸の環境調査から海洋の課題を考えよう	2 年	海人科
4. 塩づくり・海ブドウ栽培から、糸満の海産物の将来を考えよう	2 年	海人科
5. 糸満の漁業の歴史を理解しよう 糸満海人工房	3 年	海人科

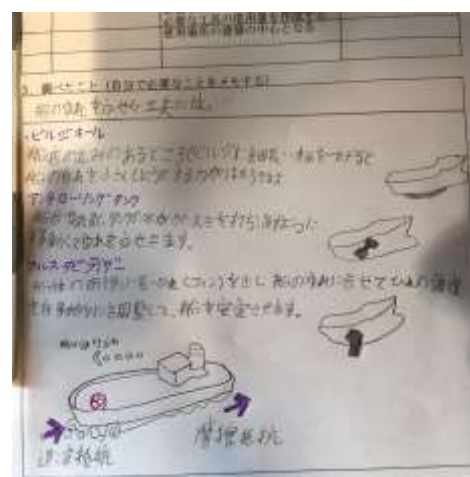
取り組みの概要

コロナ感染拡大防止のため体験活動に制限があり、当初の計画通りに進める事が出来なかったが、実施時期を調整し、各教科との関連を図りながら取り組む事が出来た。昨年度、体験学習にとどまった反省を踏まえ、探究につなげられるよう工夫を行った。

1 学年では、南山の発展と海洋の関連というテーマで学習内容を設定し、南山と明の貿易で報得川がどのように機能したかという視点で、現在の報得川の（環境調査を含めた）状況や、貿易船、南山から送られた海産物などの探究活動を設定した。南山城のフィールドワーク実施後、報得川の調査を行う予定であったが、コロナ感染拡大防止による生徒の活動に制限もあったため、学習の内容と時期を調整した。河川での活動が出来なかったため「大量の荷をどのように運び入れるか」について注目し、技術科と連携した舟づくりを実施した。



南山城跡の調査・学習会のようす



安定した船の設計ワークシート

2 学年は、大度海岸の環境と生物調査、海産物（海ブドウと塩）について調査し、SDG s と関連させてこれからの糸満の海の可能性を探る活動に取り組んだ。環境調査では、砂浜に打ち上げられたごみの分類から、プラスチックごみについて注目し、ごみが漂着する理由について、海流、産業、漁業など様々な視点で課題を捉えることが出来た。環境調査ではシャコガイやサンゴなどの現状を把握して、保全の取り組みについて考えることが出来た。海水から塩を取り出す体験や、海ブドウ収穫体験も含めて、環境の保全と海を利用した産業について、糸満の海の可能性を考えていくテーマとして継続して取り組む予定。



シャコガイの稚貝



海岸の生き物調査を行う様子



漂流物を仕分けして、どのようなものがどこからきているかを考える様子



海水から塩を取り出す様子



養殖された海ブドウを収穫する様子

3 学年では、持続可能な糸満の海の利用をテーマに、糸満の漁業に焦点を当てて計画を立てた。

糸満海人工房で漁具や漁法、昔の糸満の様子などを学習した後、糸満で揚がる魚の種類と海産物を使った料理を調査しこれからの糸満の漁業のあり方を考える予定であったが、コロナ感染防止により、漁業の調査について調整が必要となった。そこで3 学年では古民家を調べて、漁業で栄えた糸満の暮らしについて考えさせる学習に取り組んだ。



漁業を中心とした昔の暮らしを聞く様子



漁民が浜で寝泊まりをする際の道具入れ



水揚げされた魚を入れて運ぶ様子



伝統的なサバニの模型

前年度の反省であった「深い学びにつなげる工夫」について全体計画で学年ごとに、探究テーマを作成し、授業のプランシートやワークシートを作成することが出来た。また、教師間で共通理解を図って実施する事ができた。コロナの影響で日程や内容の調整が必要であった事から、次年度はオンラインを活用した調査や、地域と海洋の繋がりについて視点を絞って取り組んでいきたい。また、SDG s を取り入れて、未来をどのように生きていくかなどの探究を目指していける取り組みとしたい。